

# Y'aura-t'il de la neige à Noël ?

DOMINIQUE  
REYMOND

DANIEL  
DUVAL

JESSICA MARTINEZ  
ALEXANDRE ROGER  
XAVIER COLONNA  
FANNY ROCHETIN  
FLAVIE CHIMÈNES  
JÉRÉMY CHAÏX  
GUILLAUME MATHONNET

Un film de ...  
SANDRINE  
VEYSSET



どうか、どうか、

この乾いた大地に

奇跡の雪を

ふらせてください。

プロヴァンスに暮らすお母さんと  
7人の子供たちの物語

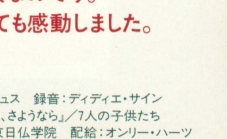
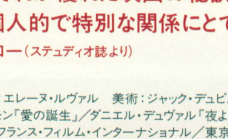
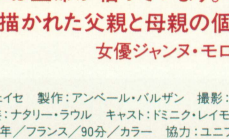
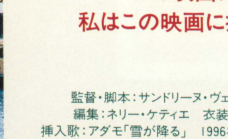
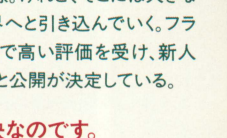
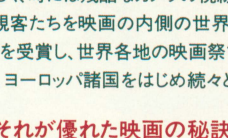
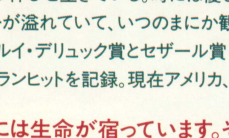
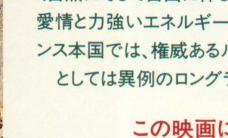
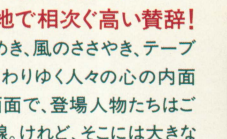
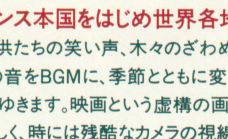
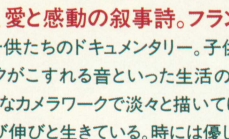
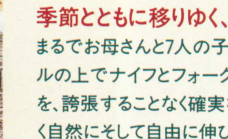
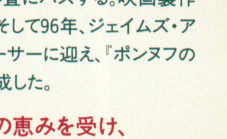
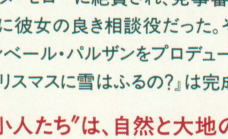
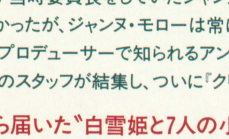
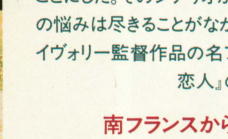
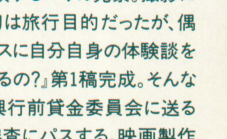
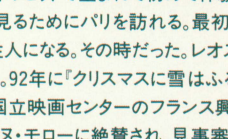
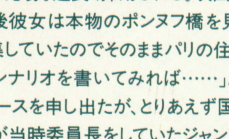
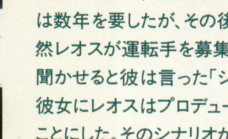
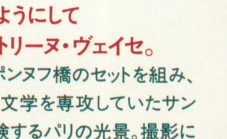
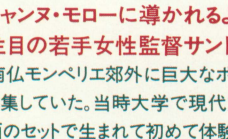
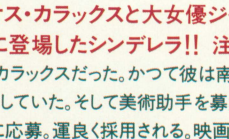
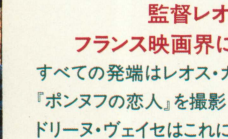
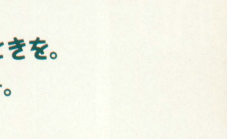
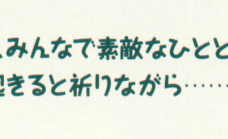
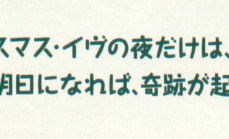
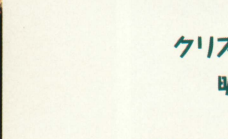
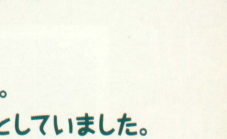
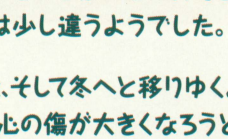
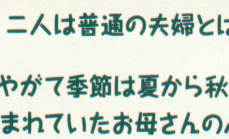
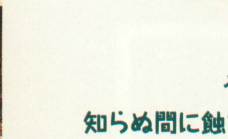
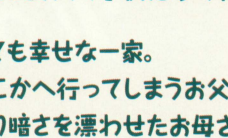
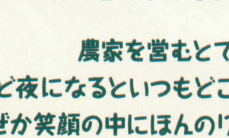
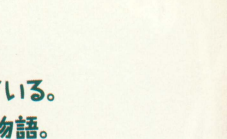
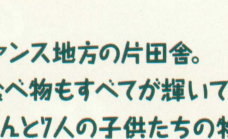
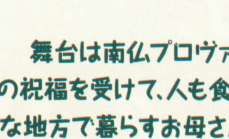
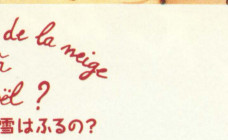
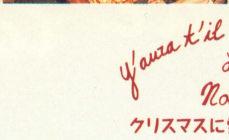
1997年セザール賞  
最優秀第1回監督作品賞

1996年ルイ・デリュック賞  
(フランスの最優秀作品賞)

1997年東京国際映画祭  
カネボウ国際女性映画週間  
オープニング作品

サンドリーヌ・ヴェイッセ監督作品

# クリスマスに雪はふるの？



*Y'aura-t'il de la neige à Noël ?*  
クリスマスに雪はふるの？

舞台は南仏プロヴァンス地方の片田舎。  
太陽の祝福を受けて、人も食べ物もすべてが輝いている。  
そんな地方で暮らすお母さんと7人の子供たちの物語。

農家を営むとても幸せな一家。  
けれど夜になるといつもどこかへ行ってしまうお父さん。  
なぜか笑顔の中にほんのり暗さを漂わせたお母さん。  
二人は普通の夫婦とは少し違うようでした。

やがて季節は夏から秋、そして冬へと移りゆく。  
知らぬ間に蝕まれていたお母さんの心の傷が大きくなろうとしていました。

クリスマス・イヴの夜だけは、みんなで素敵なしとときを。  
明日になれば、奇跡が起きると祈りながら……。

監督レオス・カラックスと大女優ジャンヌ・モローに導かれるようにして  
フランス映画界に登場したシンデレラ!! 注目の若手女性監督サントリーヌ・ヴェイセ。

すべての発端はレオス・カラックスだった。かつて彼は南仏モンペリエ郊外に巨大なポンヌフ橋のセットを組み、『ポンヌフの恋人』を撮影していた。そして美術助手を募集していた。当時大学で現代文学を専攻していたサンドリーヌ・ヴェイセはこれに応募。運良く採用される。映画のセットで生まれて初めて体験するパリの光景。撮影には数年を要したが、その後彼女は本物のポンヌフ橋を見るためにパリを訪れる。最初は旅行目的だったが、偶然レオスが運転手を募集していたのでそのままパリの住人になる。その時だった。レオスに自分自身の体験談を聞かせると彼は言った「シナリオを書いてみれば……」。92年に『クリスマスに雪はふるの?』第1稿完成。そんな彼女にレオスはプロデュースを申し出たが、とりあえず国立映画センターのフランス興行前貸金委員会に送ることにした。そのシナリオが当時委員長をしていたジャンヌ・モローに絶賛され、見事審査にパスする。映画製作の悩みは尽きることがなかったが、ジャンヌ・モローは常に彼女の良き相談役だった。そして96年、ジェームズ・アィヴォリー監督作品の名プロデューサーで知られるアンペール・バルザンをプロデューサーに迎え、『ポンヌフの恋人』のスタッフが結集し、ついに『クリスマスに雪はふるの?』は完成した。

南フランスから届いた“白雪姫と7人の小人たち”は、自然と大地の恵みを受け、  
季節とともに移りゆく、愛と感動の叙事詩。フランス本国をはじめ世界各地で相次ぐ高い賛辞!  
まるでお母さんと7人の子供たちのドキュメンタリー。子供たちの笑い声、木々のざわめき、風のささやき、テーブルの上でナイフとフォークがこすれる音といった生活の音をBGMに、季節とともに変わりゆく人々の心の内面を、誇張することなく確実なカメラワークで淡々と描いてゆきます。映画という虚構の画面で、登場人物たちはごく自然にそして自由に伸び伸びと生きている。時には優しく、時には残酷なカメラの視線。けれど、そこには大きな愛情と力強いエネルギーが溢れていて、いつのまにか観客たちを映画の内側の世界へと引き込んでいく。フランス本国では、権威あるルイ・ドリュック賞とセザール賞を受賞し、世界各地の映画祭で高い評価を受け、新人としては異例のロングランヒットを記録。現在アメリカ、ヨーロッパ諸国をはじめ続々と公開が決定している。

この映画には生命が宿っています。それが優れた映画の秘訣なのです。  
私はこの映画に描かれた父親と母親の個人的で特別な関係にとても感動しました。  
女優ジャンヌ・モロー(スタジオ誌より)

監督・脚本: サントリーヌ・ヴェイセ 製作: アンペール・バルザン 撮影: エレーヌ・ルヴル 美術: ジャック・デュピュス 録音: ディディエ・サイン  
編集: ネリー・ケティエ 衣装: ナタリー・ラウル キャスト: ドミニク・レイモン「愛の誕生」/ダニエル・デュヴァル「夜よ、さようなら」/7人の子供たち  
挿入歌: アダム「雪が降る」 1996年/フランス/90分/カラー 協力: ユニフランス・フィルム・インターナショナル/東京日仏学院 配給: オンリー・ハーツ

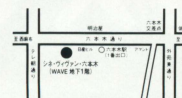
12/13(土)よりクリスマス・お正月ロードショー!

特別鑑賞券1,400円 絶賛発売中 当日: 一般1,800円 学生1,500円 都内プレイガイド、チケットゼン、チケットぴあ、ロソンにてお求め下さい。 シニア1,000円(税込)

Sortie le 13 Decembre à CINE VIVANT ROPPONGI!

年末年始のスケジュールは劇場までお問い合わせ下さい。

月~土のみ11:00 連日 1:00 3:00 5:00 7:00



シネ・ヴィヴァン・六本木

CINE VIVANT  
地下鉄六本木駅1番出口 WAVE地下1階  
TEL.03(3403)6061・自由席定員制・入替制